

## 大船渡魚市場の「初競り」



大船渡市の魚市場で4日初せりが行われました。厳しい冷え込みの中、市場には次々と漁船が入港し正月休みを終えた浜に、賑わいが戻りました。市場の関係者が、手締めをして今年1年の豊漁と街の復興を願いました。大船渡魚市場は、宮城県の漁港などに比べいち早く復旧。入港する漁船も多かったため、去年のサンマの水揚げ量は前の年を2割以上、上回りました。水揚げ高も17億円も越え金額ベースで、本州一となる見込みです。祝い酒が振舞われた市場には次々と漁船が入港し、旬を迎えたタラなどが次々と水揚げされ年の初めから、活気にあふれていました。(1/4 岩手日報 IBC ニュースより)

大船渡魚市場は、宮城県の漁港などに比べいち早く復旧。入港する漁船も多かったため、去年のサンマの水揚げ量は前の年を2割以上、上回りました。水揚げ高も17億円も越え金額ベースで、本州一となる見込みです。祝い酒が振舞われた市場には次々と漁船が入港し、旬を迎えたタラなどが次々と水揚げされ年の初めから、活気にあふれていました。(1/4 岩手日報 IBC ニュースより)

## 普代村 鵜鳥神楽「舞い立ち」



普代村を中心に毎年春、沿岸各地の家々を回る鵜鳥神楽の舞い立ちが行われ、今年一年の巡行の無事と震災からの復興を祈りました。鵜鳥神楽は海の安全と大漁祈願などの神様として知られる普代村の鵜鳥神社を拠点に、毎年交互に、

北廻り・南廻りの巡行を行う郷土芸能です。6日は巡行のスタートとなる「舞い立ち」が行われ神様を権現様に迎え入れる「権現舞」が披露されました。鵜鳥神楽は、震災で演じ手が犠牲となったり、公演の場である、神楽宿の多くが被害を受けました。今年は去年に続き、一部の地区を回るだけの小さな規模となりそうですが神楽衆は、今年一年の無事と復興を祈りながら厳かな舞を繰り広げました。(1/6 岩手日報 IBC ニュースより)

## 宮古 & 大槌発

## さんりく元気ラジオ

IBCラジオ「さんりく元気ラジオ！」(毎週水曜日・ワイドステーション)。1/9はみやこ災害FMの木村悠里さんが、13日の日曜日午後4時から行われる「商店街レッドカーペット」について伝えてくれました。これは成人を迎えた人や結婚、出産、スポーツ大会での活躍、還暦などお祝いごとがあった人が、イルミネーションが輝く宮古市の中心市街地の目抜き通りに敷かれた約250メートルの赤い絨毯を歩いて復興を目指そうというもので、市民の絆を強め復興の力にできればと話していました。(写真は昨年資料画像) また4時半からはおおつちさいがいFMの金崎伊保子さんが、「復興まちづくり大槌株式会社(仮称)」のスタッフ募集などについて伝えてくれました。



## 「震災で被災の文化財」企画展

震災によって大きな被害を受けた、被災文化財の再生活動を広く知ってもらうと盛岡で、企画展が開催されています。岩手県立博物館では、陸前高田市立博物館が所蔵していたペルム紀頭足類の化石や陸前高田市立図書館



に展示されていた吉田家文書などおよそ100点が展示されています。吉田家文書は5日間水に浸し塩抜きを行い、さらに超音波で洗浄し、機械を使って乾燥させ丁寧に修復されたものです。修復には、10人がかりで3~4週間ほどかかったということです。被災した文化財の修復作業や、再生の取り組みを解説するこのテーマ展。県立博物館で、3月17日まで開かれています。(1/6 ニュースエコーより)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中  
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>  
IBC復興支援室事務局 019-623-3122